

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	16-044	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and fecundability: prospective Danish cohort study. アルコール消費と妊孕性：デンマークのコホート研究		
執筆者		
Mikkelsen EM, Riis AH, Wise LA, Hatch EE, Rothman KJ, Cueto HT, Sørensen HT.		
掲載誌		
BMJ. 2016 Aug 31;354:i4262.		
キーワード		PMID
アルコール消費、妊孕性、デンマーク、コホート研究		27581754
要 旨		
<p>目的： 研究の目的は、アルコール消費が女性の妊孕性にどの程度影響するかを調査することである。</p> <p>方法： 研究デザインは、前向きコホート研究。研究期間は2007年6月1日-2016年1月5日。対象は、デンマークで特定の男性パートナーとの関係のある、不妊治療を受けていない21歳から45歳のデンマーク人女性6,120人。アウトカム指標は、アルコール消費量は、ビール(330mLボトル)、赤または白ワイン(120mL)、デザートワイン(50mL)、蒸溜酒(20mL)を単位として自己報告された。週に0,1-3,4-7,8-13、および≥ 14単位でカテゴリー分けを行った。参加者は、妊娠の報告、不妊治療の開始をフォローアップまたは観察の終了(最大月経12回)まで調べた。分析はリスク比回帰モデルを用いて、妊孕性を推定した。</p> <p>結果： 4,210人(69%)の参加者がフォローアップ中に妊娠した。アルコール摂取量の中央値は週2.0単位(四分位範囲0-3.5)であった。アルコール非摂取者と比較して、1週間当たり1-3,4-7,8-13,14杯/週またはそれ以上のアルコール摂取者の妊孕率は、0.97(95%信頼区間0.91-1.03)倍、1.01(0.93-1.10)倍、1.01(0.87-1.16)倍および0.82(0.60-1.12)倍であった。アルコール非摂取者と比較して、ワイン(3単位以上)、ビール(3単位以上)、または蒸溜酒(2単位上)を摂取した女性の妊孕率は、1.05(0.91-1.21)倍、0.92(0.65-1.29)倍、0.85(0.61-1.17)倍であった。</p> <p>結論： 週当たり14杯未満のアルコールの消費は、妊孕性に顕著な影響を及ぼさないことが示唆された。ビールとワインの消費水準による妊孕性に大きな違いは見られなかった。</p>		